株主メモ
MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（当事業年度の中間配当の予定はございません）
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.fujipream.co.jp/）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777（通話料無料）

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌
PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様に適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。

FUJI PREAM フジプレアム株式会社 www.fujipream.co.jp/
〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38番地1
TEL079-266-6161(代) FAX079-266-6738

FUJI PREAM
JASDAQ 証券コード：4237

PRE

フジプレアムと
社会を結ぶ情報誌【プレ】

VOL.43
第39期年次報告書

特集

㈱飯沼ゲージ製作所の子会社化による新たなグループ体制が発進

複合化技術の進化へ向けて

フジプレアムについて
About Our Company

フジプレアムグループ経営理念　～中期経営ビジョンの体系～

創業の精神

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

経営理念

存在意義	**「共存・共生・共産」**の理念で、ステークホルダーを始め、持続可能な住みよい社会の発展に貢献する
経営の姿勢	二つとない**(不二)**時代に先駆けて(pre)存在し(am)進化し続ける企業を目指す
事業行動の指針	**「誠意」**と**「不可能への挑戦」**の精神をスローガンに未来を切り開く事業を手がける

ステークホルダーに対する姿勢　～ステークホルダーとの関係性を理解する～

一人一人の尊厳と価値が認められ、
従業員が家族に対する責任を
果たすことができる会社

地域社会
地域社会の発展、健康、教育の改善に寄与する活動に参画し、地元に愛される会社

株主様
企業価値を持続的に向上できる会社

お客様
共に新領域に挑む共創関係となれる会社

株主の皆様へ
To Our Shareholders

光都工場　光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

精密貼合市場の
グローバルリーディングカンパニーを目指す。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素よりフジプレアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第３９期（令和３年３月期）決算報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社を取巻くビジネス環境は、新型コロナウイルスの感染拡大により、社会経済活動が大きく制限され、未だ感染の収束が見通せないことから引き続き厳しい経済環境下にあります。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、車載用途市場、医療機器用途市場向けのビジネスが拡大し、大型モニター市場向け等も堅調に推移することが見込まれます。

環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、OEM供給品の開発要素が大きいものに注力してまいりました。また、太陽電池だけに留まらず、環境に配慮した住空間・生活空間あるいは製造環境の構築に貢献するために、メカトロニクス技術も活用した省人化あるいは省エネルギー化ビジネスにも注力しております。更に、SDGs（持続可能な開発目標）と呼ばれる国際社会共通の目標に向けても幅広く対応を行ってまいります。

また、本年４月に子会社化した株式会社飯沼ゲージ製作所の機械製造技術を両部門に活用し、難易度の高い製造装置の開発による加工技術向上、販売先の拡大を行ってまいります。

今後、当社といたしましては、変革のスピードを加速させ、グローバルリーディングカンパニーを目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　松本倫長

特集

複合化技術の進化へ向けて

～㈱飯沼ゲージ製作所の子会社化による新たなグループ体制が発進～

さらなる飛躍に向けて新たなグループ体制へ。

新型コロナウイルスの影響が続き、
様々な分野において市場は変化の時を迎えています。
そうした中で、
フジプレアムは2021年4月
株式会社飯沼ゲージ製作所の株式を取得し、
子会社化いたしました。
新たなグループ体制を築くことで、時代のニーズを先取りして
先進の技術を提供するという強みを進化させ、
これまで以上の飛躍につながる土台を整えました。

約70年間で培った確かな技術力を備える「飯沼ゲージ製作所」。

飯沼ゲージ製作所は、1951年の創業以来約70年間、治工具、専用機、LCD製造装置など様々なものづくりを設計から製作、現地対応まで一貫した生産体制で行っている企業です。また、早い段階から液晶製造装置の開発・製造を手掛け、ラビング装置（液晶配向膜配向処理装置）については世界No.1のシェアを誇るなど、確かな技術力を備えています。その他、車載関連の貼合機器や、搬送系を主力とする機械製造・ライン製造にも注力しており、当社との「シナジー効果」は高いと判断しました。今回フジプレアムでは、そうした飯沼ゲージ製作所のノウハウと確かな技術を取り入れることで、将来に向けた事業の基盤を共に作り上げていきたいと考えています。

代表取締役社長 松本倫長

成長戦略で重要な鍵を握るM&A。

フジプレアムの成長戦略の一つとして、M&Aは常に選択肢の中にあります。日頃からM&Aの問い合わせは多く、様々な企業の中からどこを買収するかには大きな決断が求められます。その中で、大切にしているのは「シナジー効果」が期待できるか否かです。

中長期的な成長のドライバーとして、精密貼合技術を中心とした複合化技術と、技術の高度化を実現するためのメカトロニクス技術を据えています。M&Aにおいては、精密貼合技術を深化させ、メカトロニクス技術を強化させられるかどうかが重要テーマとなっており、それらの技術力を上げるための最適な企業として私たちが選択したのが、長野県に本社を置く飯沼ゲージ製作所でした。

ラビング装置（液晶配向膜配向処理装置）

飯沼ゲージ製作所 外観

特集 複合化技術の進化へ向けて

～㈱飯沼ゲージ製作所の子会社化による新たなグループ体制が発進～

技術・顧客・人材の3つのリソースを手にさらなる成長へつなげる。

フジプレアムには、営業が吸い上げたニーズを技術本部が形作り、それを製品化していくという業務の流れがあります。この流れを高速で回していくために最も重視しているのが、顧客のための「ファーストアウトプット」です。スピーディーで質の高い提案は事業を成長させていく上で欠かせませんが、そこに飯沼ゲージ製作所の技術力が加わることで、「ファーストアウトプット」の実現がより容易になるものと考えています。

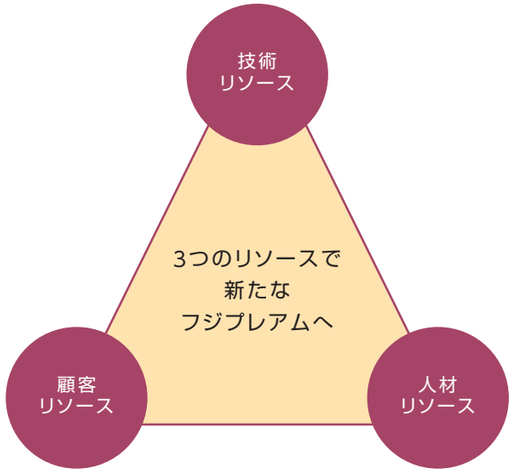
一例を挙げますと、貼合技術における粘着方式について、当社では主にフィルム状のOCAを採用しています。それに対し、飯沼ゲージ製作所が強みにしているのは液体状のOCRです。

これらは用途や形状、素材によって使い分けられるものですが、今後、フジプレアムにない技術を取り入れることで、これまで対応できなかった部分にも可能性が広がります。また、飯沼ゲージ製作所の既存の顧客ともつながりを持つことで提案の幅も広がることが予想されます。

飯沼ゲージ製作所の強みの一つである機械製造・ライン製造における豊富なラインナップも、メカトロニクス事業をパワーアップさせてくれる可能性があります。さらに、機械をつくる上で大事なのは人です。両社の経験豊富な人材が交わることで、多様化するニーズに応えるための技術力と提案力を飛躍的に向上させていきたいと考えています。

異型パネル貼り合わせ（イメージ）

異型パネル貼り合わせ（イメージ）



海外顧客とつながるルートの獲得でグローバル化を加速。

フジプレアムでは、中長期ビジョンとして「技術の高度化」と「グローバル化」を掲げています。前述の通り、技術の高度化については様々な観点から飛躍的な成長が期待できますが、もう一つのグローバル化においても今回のM&Aが一つのきっかけとなり得る可能性を秘めています。

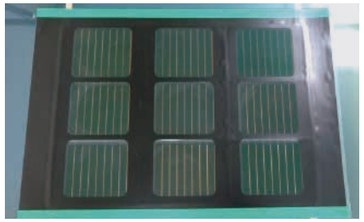
飯沼ゲージ製作所は中国を中心とした世界市場にも進出しており、蘇州に拠点を構えています。海外顧客とつながる新たなルートを確保することで、対外顧客との直接取引が少なかったという現状を打破し、「グローバルリーティングカンパニー」の実現につながることを期待しています。

事業の垣根を越えた発展で常に時代のニーズを先取りしていく。

BCPの観点で見ても、姫路エリアだけでなく長野県が製造拠点として加わることは大きなメリットと言えます。長野県飯田市は精密工業が集約している立地のため、長野エリアで製造する方が優位性が得られることも考えられます。今後は、顧客やパートナー企業の関係を踏まえ、柔軟かつ合理的に検討していく予定です。

また、社内における他事業との連携も大いに期待できます。環境に配慮した事業領域に対応するELS事業部は設備が内製のため、このM&Aによってラインナップは明らかに広がります。京都大学と開発を進めている次世代型太陽電池「ペロブスカイト」においても高い技術力が必要となるため、今後は事業の垣根を超え、どうすれば実用化できるかを模索していきます。

技術の変化は想像以上に速く、今は好調な液晶についても10年後にどうなっているのかはわかりません。変化に負けないよう常にニーズを先取りし、スピードと質の両輪で応えていかなければビジネスとして成立しません。今後もM&Aを積極的に検討していきますが、まずは新たなグループ体制によるフジプレアムの強みを最大化させることに尽力いたします。



ペロブスカイト太陽電池

ESG最・前・線 フジプレアムのESGへの取り組み

地域貢献編

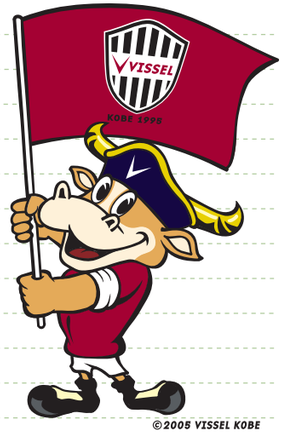
2021年　ヴィッセル神戸オフィシャルパートナーに参加

この度、J1リーグ加盟のプロサッカークラブ、ヴィッセル神戸とオフィシャルパートナー契約を締結しました。

ヴィッセル神戸は地元兵庫県の代表的なサッカークラブであり、応援を通じて地域社会に貢献しチームスポンサーとして盛り上がりの一助となればと考えております。

「ソーシャルシート（社会貢献型シート）」に寄付し、兵庫県・神戸市内の各福祉施設の方々をホームゲームに招待するなどのCSR活動も行います。

ノエビアスタジアム内ではソーシャルシート以外にもフジプレアムのロゴがいたるところに掲出されており、多くの方々に当社の事を知っていただくきっかけとなれば幸いです。



2月27日、感染症対策が十分に行われたうえで開幕戦が行われ、ヴィッセル神戸が見事1-0でガンバ大阪に勝利しました！

選手の連帯力やそれを応援するサポーターの熱量を間近で感じ、今回のオフィシャルパートナー契約を通じて、微力ながらもスポーツの発展に携われる有難さを感じることが出来ました。

プロスポーツに対して大きな逆風が吹く今だからこそ、支援させて頂く意義をより強く感じています。

トピックス
Topics

TOPICS 01 令和3年度　入社式を実施

4月1日に入社式を開催し、本年度はフジプレアム9名・フジプレ販売1名の新入社員を迎えました。松本社長より、「コロナ禍での入社となりまさに"変化"を体感できる貴重な時期。様々な経験を積み社会人としての強みを磨いていって下さい。」と激励の挨拶がありました。

2021　2 February　3 March　4 April

TOPICS 02 甲子園球場への広告掲出を継続

本年度も阪神甲子園球場の1塁側内野フェンスにフジプレアムの社名を掲出いたしました。当広告を通じてより多くの方々にフジプレアムを知っていただければ幸いです。

TOPICS 03 ヴィッセル神戸オフィシャルパートナーに就任

J1リーグ「ヴィッセル神戸」と2021年オフィシャルパートナー契約を締結しました。地元プロサッカークラブの応援を通じ、社会貢献・地域貢献に寄与いたします。

VISSEL

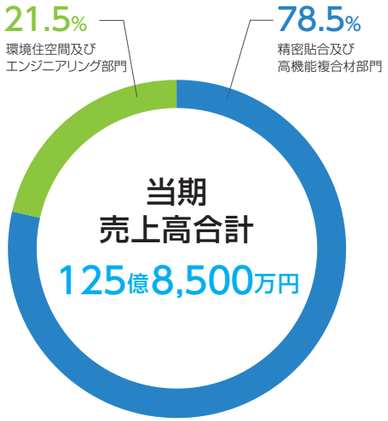
セグメント情報
Segment Information

親会社株主に帰属する当期純利益2億700万円確保

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により社会経済活動が大きく制限され、企業収益や雇用環境が悪化する等、厳しい状況で推移いたしました。また、先行きの見通しにつきましても、未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから、引き続き厳しい経済環境が続くことが想定されます。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門を取り巻く環境におきましても、汎用品等の製品価格低下等により厳しい環境となりつつありますが、最先端のエレクトロニクス関係製品向け、自動車業界あるいは医療機器業界向け等の、高付加価値マーケットからの引合いが順調に推移しております。一方、環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、国内再生可能エネルギー市場に対する期待は高まっているものの、従来型の太陽光発電事業は海外製品の流入により、引き続き厳しい市場環境となりました。

この結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高12,585百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益309百万円（同10.4%減）、経常利益346百万円（同4.4%減）を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は207百万円（同46.3%減）となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門

第39期 売上高
98億 8,500万円

国内外におけるディスプレイ・タッチパネル市場は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市場規模は一時的に縮小いたしましたが、中国の企業活動が早期に回復したことにより再度市場規模は拡大基調となっております。ユーロカップや東京五輪開催延期の影響により、テレビ用途市場は伸び悩む一方で、車載用途市場あるいは医療機器用途市場は各種機器・装置のディスプレイ化が更に進むことから、堅調に拡大することが見込まれます。また、大型モニター市場、デジタルサイネージを中心としたパブリックディスプレイ市場も拡大しており、市場全体としては今後も引き続き成長が見込まれます。このような市場の変化の中、精密貼合技術により一層磨きを掛け、新規生産設備の導入による生産の高度化を実施することにより、難易度の高い技術を求められる用途製品の開発に取組んでおります。自動車を含めたモビリティについては、多様なパーツのディスプレイ化あるいはタッチパネル化が見込まれており、そのための開発要素の強い取組みも実施しております。

この結果、売上高9,885百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益321百万円（同40.7%増）となりました。

環境住空間及びエンジニアリング部門

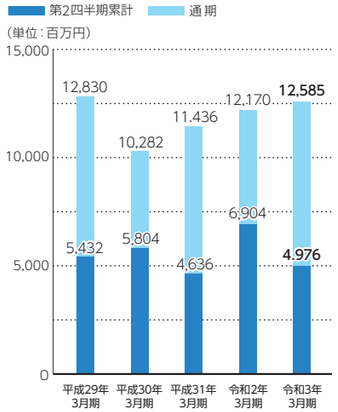
第39期 売上高
26億 9,900万円

太陽電池の国内市場は、国内制度の変更あるいは海外メーカーの台頭により、国内メーカーにとっては厳しい状況が続いております。そのため当社グループも、OEM供給品へのシフト、更にはOEM供給品についても製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力してまいりました。また、今期からは太陽電池だけに留まらず、環境に配慮した住空間・生活空間あるいは製造環境の構築に貢献するために、メカトロニクス技術も活用した省人化あるいは省エネルギー化ビジネスにも注力しております。足元の状況としましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり厳しい環境ではありますが、引合いについては着実に増加しております。

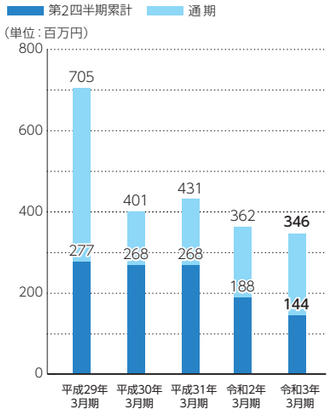
この結果、売上高2,699百万円（前年同期比13.0%増）、営業損失17百万円（前連結会計年度は110百万円の営業利益）となりました。

財務ハイライト
Financial Highlight

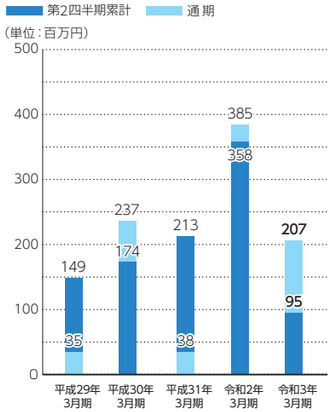
売上高



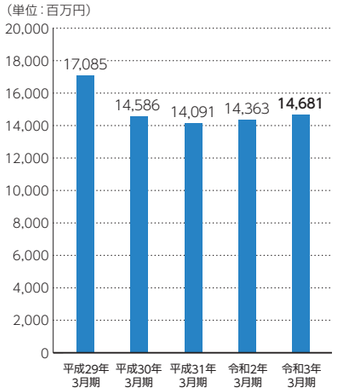
経常利益



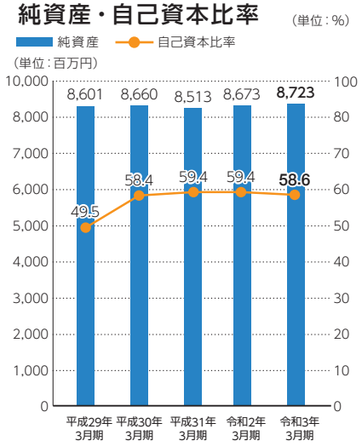
親会社株主に帰属する純利益



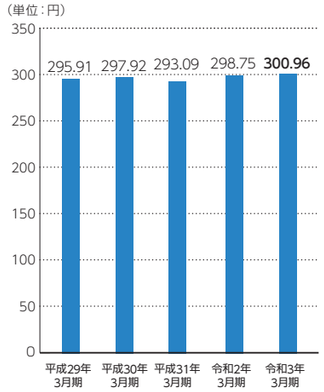
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

（単位：千円）

科目		当期（令和3年3月31日）	前期（令和2年3月31日）
資産の部	流動資産	6,642,396	6,516,080
	現金及び預金	3,113,708	3,546,381
	受取手形及び売掛金	2,479,885	1,850,303
	商品及び製品	11,376	154,395
	仕掛品	727,413	585,059
	原材料及び貯蔵品	286,198	363,889
	その他	23,814	16,052
	固定資産	8,038,863	7,847,801
	有形固定資産	7,276,993	7,342,966
	無形固定資産	3,302	3,385
	投資その他の資産	758,567	501,448
資産合計		14,681,260	14,363,881

（単位：千円）

科目		当期（令和3年3月31日）	前期（令和2年3月31日）
負債の部	流動負債	4,812,053	3,583,112
	支払手形及び買掛金	1,456,336	977,002
	短期借入金	2,130,000	1,830,000
	1年内返済予定の長期借入金	960,044	460,044
	未払法人税等	103,479	150,614
	賞与引当金	12,864	12,442
	その他	149,329	153,009
	固定負債	1,146,172	2,107,627
	長期借入金	1,111,492	2,071,536
	その他	34,680	36,091
	負債合計	5,958,226	5,690,740
純資産の部	株主資本	8,583,587	8,548,053
	資本金	2,000,007	2,000,007
	資本剰余金	2,440,803	2,440,803
	利益剰余金	5,006,688	4,971,132
	自己株式	△863,912	△863,890
	その他の包括利益累計額	16,304	△11,203
	非支配株主持分	123,141	136,291
	純資産合計	8,723,034	8,673,141
負債純資産合計		14,681,260	14,363,881

連結損益計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）	前期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）
売上高	12,585,426	12,170,235
売上原価	11,404,753	10,973,190
売上総利益	1,180,673	1,197,044
販売費及び一般管理費	871,563	851,907
営業利益	309,109	345,136
営業外収益	45,395	30,151
営業外費用	8,258	12,924
経常利益	346,246	362,362
特別利益	590	328,673
特別損失	33,590	112,402
税金等調整前当期純利益	313,247	578,633
法人税、住民税及び事業税	160,294	144,329
法人税等調整額	△40,902	50,962
当期純利益	193,855	383,342
非支配株主に帰属する当期純損失（△）	△13,150	△1,826
親会社株主に帰属する当期純利益	207,005	385,168

連結包括利益計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）	前期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）
当期純利益	193,855	383,342
その他の包括利益	27,508	△51,949
その他有価証券評価差額金	27,508	△29,599
為替換算調整勘定	—	△22,350
包括利益	221,364	331,392

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）	前期（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	356,687	423,156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△458,626	△380,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	△332,981	40,843
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,243	△5,041
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△432,677	78,236
現金及び現金同等物の期首残高	3,495,840	3,417,603
現金及び現金同等物の期末残高	3,063,163	3,495,840

Profile

会社概要

（令和3年3月31日現在）

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation（英）
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業　他
従業員数	184名（連結、臨時雇用を除く）
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社（設立：平成13年4月）
主要取引銀行	三菱UFJ銀行／みずほ銀行／山陰合同銀行

取締役及び監査役

（令和3年3月31日現在）

代表取締役社長	松本　倫長
代表取締役専務	名村　信彦
取締役	木村　裕史（社外）
取締役	森田　晃史
常勤監査役	上田　豊
監査役	中川　康徳（社外）
監査役	田島　宏一（社外）

株式の分布状況

（令和3年3月31日現在）

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	5,471名

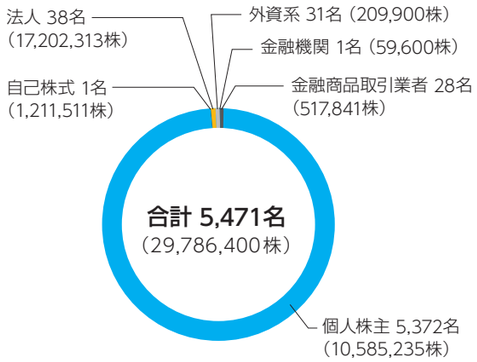
大株主の状況

（令和3年3月31日現在）

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本　倫長	2,441,400株
松本　庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレアム株式会社	1,211,511株
リンテック株式会社	936,000株
AGC株式会社	481,200株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
津田　鉄也	259,900株

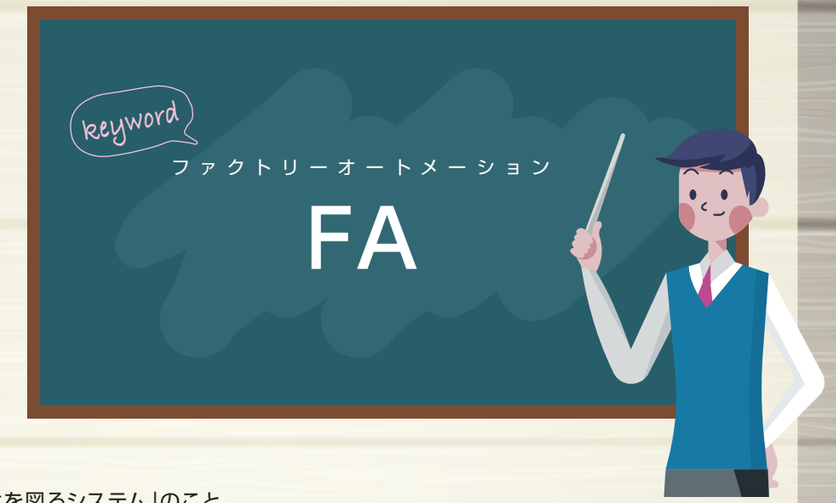
株式分布状況

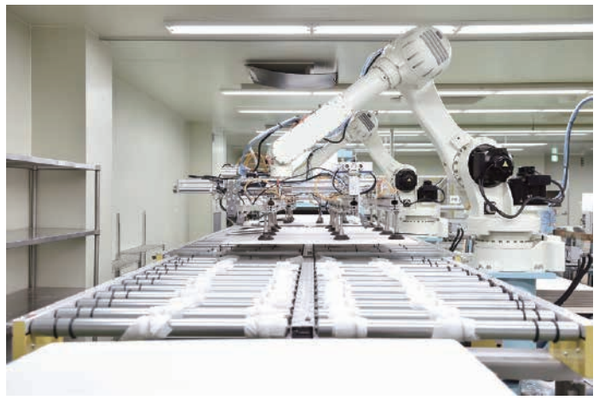
（令和3年3月31日現在）



キーワード解説 vol.3

先端産業を支える
フジプレアムの独自技術を
キーワードで解説するシリーズ



「工場における生産工程の自動化を図るシステム」のこと。
メカトロニクス技術を活用して、製造現場の自動化・省力化への提案を行う
フジプレアムのファクトリーオートメーション事業への取り組みを紹介します。

フジプレアムのファクトリーオートメーション事業の原点は、1983年に開設された機械事業部。ここで培った自動包装機械の設計思想・製造技術のノウハウを、以後、時代ごとの様々なお客様の要望に合わせ、装置・ラインのロボットを含めた設計・開発・製造を重ねることで、独自の技術を蓄積してきました。
現在では、メカトロニクス事業部を基軸に食品・医薬品・物流等といった様々な分野における装置・ラインのオートメーション化へと展開。
人材不足や生産性向上といった現場の課題を解決するために、日々新たな挑戦を続けています。